

孤立 ネットの虚構におぼれ

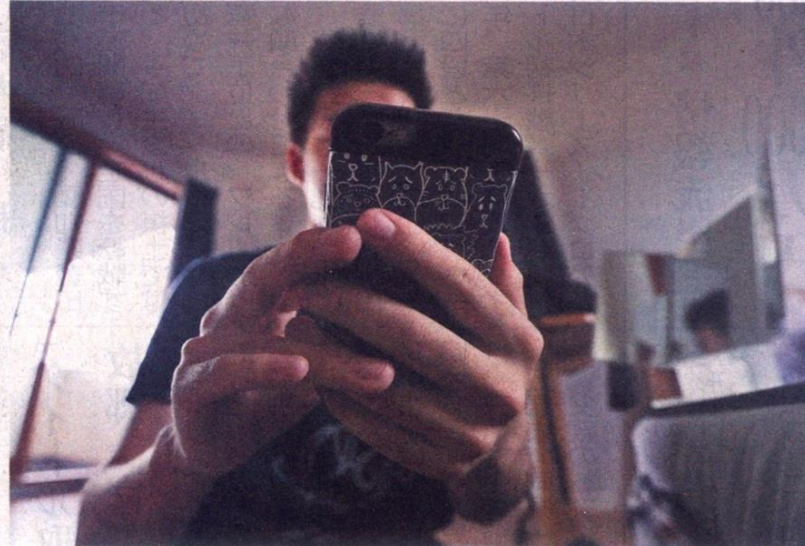


<3>

「車でつっこんで…ナイフを使います みんなさよなら 時間です」

めに、面識のない人々を襲撃したのだという。加藤は地元や職場など、

別殺傷事件を起こす直前に、死刑囚加藤智大(三三)がインターネットの掲示板に書き込んだ。二十分後、歩行者天国へトラックで突っ込み、ナイフで殺戮を繰り返した。



ネット依存症を治療中の男性。スマホの使用は決められた時間だけに制限している＝山梨県で

「なりすまし」に「大切な人間関係が壊され、奪われた」。その結果、自分がどれほど傷ついたかを、顔も名前も知らないネット上の相手に分からせる。そのた

インターネット依存症は、オンラインゲームに依存する若年層が最多で、SNSに没入する例も多い。世界保健機関(WHO)は今年、ゲームにのめり込む「ゲーム障害」を国際疾病分類に加える方針。「病氣」と位置付けることで、行政や医療の対策が進むとみられる。

虚構の世界の出来事への報復として、現実世界で起こした凶行。本心かどうかは不明だが、それを加藤は「後悔している」という。(敬称略)

「みんな敵」「殺人を合法にすればいいのに」

「見事に無視されていた」と指摘する。「実社会より簡単に承認欲求が満たせる、手っ取り早い居場所。現実社会でコミュニケーションが苦手な人ほど、のめり込むが、度を越えると無視される」。加藤は現実に加え、ネットでも孤立した。

だが実は加藤自身が法廷で、ネットにおぼれた愚かさ告白している。「事件後にネットから離れて、重要なのは現実の人間関係だと気付いた」。遅すぎたとはいえ「ネットではなく現実の中に居場所がたくさんあったと思える」。

現実社会でトラブルが起きると人間関係を断ち切ってきた。ネットは「他に代わりのない、大切なもの」。顔を合わせないからこそ、本音でつながることができ。そう信じて、携帯電話で書き込みを続けた。

「見事に無視されていた」と指摘する。「実社会より簡単に承認欲求が満たせる、手っ取り早い居場所。現実社会でコミュニケーションが苦手な人ほど、のめり込むが、度を越えると無視される」。加藤は現実に加え、ネットでも孤立した。

「見事に無視されていた」と指摘する。「実社会より簡単に承認欲求が満たせる、手っ取り早い居場所。現実社会でコミュニケーションが苦手な人ほど、のめり込むが、度を越えると無視される」。加藤は現実に加え、ネットでも孤立した。

「見事に無視されていた」と指摘する。「実社会より簡単に承認欲求が満たせる、手っ取り早い居場所。現実社会でコミュニケーションが苦手な人ほど、のめり込むが、度を越えると無視される」。加藤は現実に加え、ネットでも孤立した。

する。当時は認知されていない。その専門外来を、事件から三年後の一年に国内で初めて開設した久里浜医療センター(神奈川県)によると、統一された診断基準がまだないこともあって、無自覚の「予備軍」が多い。山梨県に住む男性患者(三〇)も半年前まで、自分がネット依存だとは「気付かなかった」。